

# 全国地理教育学会 第11回大会 プログラム

## 大会テーマ 地理教育における『総合』の意義と方法

期 日 2017年 11月26日(日)

会 場 香川大学教育学部 北8号館

発表会場：811・812・822教室 シンポジウム：822教室  
評議員会：821教室 懇親会：大学会館「空海（そらみ）」

主 催 全国地理教育学会 全国地理教育学会中国・四国支部

日 程 11月26日(日)

8:30~	受 付
9:10~11:50	一般研究発表
12:00~12:45	評議員会
13:00~15:30	シンポジウム
15:45~16:15	総 会
16:30~18:00	懇 親 会

※大会要項での時程とは変更があります。ご注意ください。

関連集会 11月25日(土) 中国・四国地理教育研究集会があります。  
テーマ：「地理教育こうすればおもしろい～地理教育実践力の継承～」  
13:50～14:40地理の公開授業（香川大学附属坂出中学校）があります。

会 費 大会参加費 1,500円 (会員・非会員ともに)  
懇親会費 5,000円 (会員・非会員ともに)

※大会申し込みをまだされていない方で、懇親会参加希望の方は、香川大学伊藤研究室または大会委員会メールまでお早めにご連絡ください。

大会事務局連絡先 大会実行委員長：伊藤裕康（香川大学教育学部）  
TEL：087-832-1072（伊藤研究室）  
大会委員会：牛込裕樹（大会委員長）TEL：090-1846-3359  
E-mail：taikai@jageoedu.jp

全国地理教育学会事務局 〒114-8574 東京都北区中里3-12-2  
女子聖学院中学高等学校 柏倉康成  
URL：<http://www.jageoedu.jp>

●研究発表・第1会場 (811教室) (9:10~11:50)

発表時間 発表：15分 質疑応答：4分

◎ 9:10~10:29 座長 101・102：菊地達夫（北翔大学短期大学部）  
103・104：宮本静子（宮城県名取市立増田中学校）

- 101 地域の環境を生かした農業－3年・5年農業の授業実践から考察－  
河野富男（香川県宇多津町立宇多津小学校）
- 102 地図造りを生かしたアクティブスクールの事例報告－社会科から広がる学校活性化－  
岡田良平（大阪府泉南郡岬町立深日小学校）
- 103 愛荻舎（あいてきしゃ）による地理教育－昭和初期の北海道浦河郡荻伏における一  
椿 実土里（北海道白糠高等学校）
- 104 社会科教育と道徳教育－郷土愛をめぐって－  
山口幸男（群馬大学名誉教授）

休憩（10:30~10:50）

◎ 10:50~11:49 座長 永田成文（三重大学教育学部）

- 105 小学校社会科新学習指導要領の内容構成に関する批判的検討  
佐藤浩樹（神戸女子大学文学部）
- 106 『小学校学習指導要領解説生活編（平成29年6月）』にみられる地理的概念  
－一貫地理教育カリキュラムの可能性－  
吉田 剛（宮城教育大学）
- 107 教員養成課程における新聞活用授業の実践と効果－自然災害記事を題材として－  
菊地達夫（北翔大学短期大学部）

●研究発表・第2会場 (812教室) (9:10~11:50)

発表時間 発表：15分 質疑応答：4分

◎ 9:10~10:29 座長 201・202：松岡路秀（専修大学・非）  
203・204：大島 悟（島根大学大学院教育学研究科）

- 201 領域をまたいだ単元構成の在り方への一考察－高松平野における湧水の教材化を通して－  
小野智史（香川大学教育学部附属高松中学校）
- 202 中学校社会科地理学習の変容と教師の意識  
－香川県及び静岡県浜松市における調査を通して－  
鈴木正行（香川大学教育学部）・伊藤裕康（香川大学教育学部）
- 203 中国・四国地方の地誌学習における地域区分について－中学校地理教科書の分析－  
今井英文（山陽学園大学・非）
- 204 社会・地理歴史科教育における略地図の有効性  
－GISとの併用で育成する地理的見方・考え方－  
伊藤善文（甲南大学教職教育センター・非）

休憩（10:30~10:50）

◎ 10:50~11:49 座長 山本 實 (東京農業大学・非)

- 205 文化遺産を扱う世界遺産教育の再検討ー世界遺産一覧表への登録に関する賛否に着目してー  
金野誠志 (鳴門教育大学)
- 206 竹島に関する学習の実践と考察ー韓国の教科書に掲載されている地図の教材化の試みー  
大島 悟 (島根大学大学院教育学研究科)
- 207 天気予報における日本列島表記の問題ー大学生の日本地図からの考察ー  
西岡尚也 (大阪商業大学)

●研究発表・第3会場 (822教室) (9:10~11:50)

発表時間 発表: 15分 質疑応答: 4分

◎ 9:10~10:29 座長 301・302: 須原洋次 (龍谷大学)

303・304: 高田準一郎 (岐阜聖徳学園大学教育学部)

- 301 高校地理B アフリカ地誌における知識構成型ジグソー学習を活用したアクティブ・ラーニング型授業の実践ー「なぜ、アフリカの国では民族対立が多発するのか」ー  
久保哲成 (兵庫県立柏原高等学校)
- 302 社会教育における地理教育ー世界地理を中心にー  
松浦直裕 (石川県立生涯学習センター)
- 303 防災教育に生かす郷土史研究ー津波被災地・福島県新地町からの考察ー  
濱田潤子 (福島県立新地高等学校)
- 304 ふるさとの価値をとらえなおす高等学校地理における観光教育の授業開発  
永田成文 (三重大学教育学部)

休憩 (10:30~10:50)

◎ 10:50~11:49 座長 横山 満 (全国地理教育学会副会長)

- 305 高等学校地理教科書における河岸段丘の取り扱いに関する分析・考察  
中牧 崇 (東洋大学・非)
- 306 地域観察における流域景観の開発教材  
高田準一郎 (岐阜聖徳学園大学教育学部)
- 307 巡検観察を通じた都市内部構造の把握と変容ー東京都荒川区・台東区を事例にー  
天野秀彦 (サレジオ学院中学校・高等学校・非)

●評議員会 (821教室) (12:00~12:45)

●シンポジウム (822教室) (13:00~15:30)

◎テーマ: 「地理教育における『総合』の意義と方法」

- オーガナイザー 伊藤裕康 (香川大学教育学部)、河合保生 (ノートルダム清心女子大学)  
牛込裕樹 (大妻中野中学校・高等学校)

## シンポジスト

- 伊藤裕康（香川大学教育学部）：地理教育における「総合」と地理の有用性—教職経験を踏まえて—  
 小澤裕行（愛知県扶桑町立扶桑北中学校）：地歴連携授業を基にした地理教育における「総合」の考察  
 須原洋次（龍谷大学）：「地理総合」設置の経緯と期待  
 辰己 勝（近畿大学）：「地理総合」での自然システム学習の充実を目指して

## シンポジウム要旨

地理は、暮らしを営む場である環境と子ども自身も含めた人間の諸活動との関わりを学び、その人間の諸活動がどのように地球環境と結びつくかを理解させるものである。子どもに自然的側面と人文的側面の両方から地域とそこに住む人々のあり方を学ぶ方を獲得させることで、社会に参画する力の啓培が可能となる。このように、地理は、自然科学と人文科学とを統合する点に他とは異なる有用性と意義、特質を持つ。だが、かねてより自然地理的領域に関わる教育内容の不十分さや、自然地理的領域と人文地理的領域を有機的に統合した学びの必要性が言われ続けている。この問題は、地理の総合と関わっている。元来、「地域・地理的事象」は総合的な内容を持っているが、地理教育において「総合」は十分に達成されていたと言えるだろうか。

ところで、近々改訂される高等学校の教育課程では、必修科目「地理総合」が新設される。「地理総合」は、「持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに注目して現代的地理的な諸課題を考察する科目」（中央教育審議会答申、2016年12月21日）として位置づけられる。必修科目「地理総合」では、地理の何をどのように総合するのか、理念にとどまることなく、わかりやすい説明が必要であるとの指摘もある。

地理での「総合」の意味を実践レベルで示すことが、今、求められていると言えよう。そこで、第11回大会は、地理と地理以外の科目との統合、自然地理的領域と人文地理的領域との統合、さらにもとづく地域の総合的理解を図る観点から、地理教育における「総合」とその手立てを探ってみたい。

● **総 会** （822教室） （15:45～16:15）

● **懇 親 会** （大学会館「空海（そらみ）」） （16:30～18:00）

## ● 交 通 案 内

### 【交通案内および会場案内図】

- ◎ことでんバス ・まちなかループバス「JR高松駅」→「香川大学教育学部前」下車徒歩2分  
 ・弓弦羽行「JR高松駅」→「幸町」または「宮脇町」下車徒歩3分  
 ・香西車庫行「JR高松駅」→「宮脇町」下車徒歩3分

◎タクシー JR高松駅→香川大学約10分 約800円

◎JR高松駅徒歩20分、JR昭和町駅 徒歩5分（高松駅から1駅）

※大学校内には駐車するスペースは全くありません。公共交通機関をご利用下さるか、最寄りのコインパーキング等をご利用下さい。

